

2012年1月号 平成24年1月12日発行

愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター

Aichi Gakuin University Dental and Pharmaceutical Library and Information Center

〒464-8650 名古屋市千種区楠元町 1-100 電052-751-2561 (内線 1621~1623) <http://www.slib.aichi-gakuin.ac.jp/>



「孔子の旅について」

寒中お見舞い申し上げます。

年の始めに「論語」を読んで考えたことを、まとめてみたいと思います。

今からおよそ 2500 年前の紀元前 496 年、孔子は魯の国の宰相代行の地位についていて、事実上の為政者である三桓氏（今から登場する季桓氏を含む）との政治闘争に明け暮れていました。

齊人婦女樂。季桓氏受之。三日不朝。孔子行。（微子第十八の四）

[読み下し文] 齊人女学（じょがく）を帰（贈）る。季桓子これを受く。三日朝（ちょう）せず。孔子行（去）る。

[私的説明] 魯の国の隣の齊の国から、女の楽団を贈ってきた。魯の国の為政者のうちの 1 人の季桓氏は、この贈り物を受けることにした。為政者たちは美女の歌や踊りに現を抜かし、その後しばらく政治の場に姿を現わさなかった。彼らの態度に愛想を尽かした孔子は、これをきっかけに、弟子とともに旅に出ることにした。

孔子 57 歳、この旅が、その後 10 年以上も続くとは、孔子自身も夢にも思わなかったことでしょう。

この旅の目的は、魯の国の近隣の国を回って仕官をするための、今で言うと就活のための旅でした。しかし、就活は成功せず、道に迷ったり、食糧がなくなったり、反乱に巻き込まれたり、様々な困難に出会いました。

孔子は年老いてやがて故郷の魯の国に帰ってきました。

この旅で孔子は何を思ったのでしょうか？それは、

人の己を知らざるを憂えず（人が自分の値打ちを知らないことを恨まない）

というようなことか、と想像します。論語には同じような意味の言葉が 5 か所も出ています。（学而第一の一、学而第一の十六、里仁第四の八十、憲問第十四の三六四、衛靈公第十五の三九七）

どうして、私（孔子）の値打ちを世間は分かってくれないのか、という孔子の慟哭が聞こえるような気がします。

昨年（2011）暮れに、「孔子の教え」（フー・メイ監督）という映画が上映されたようです。一度見てみたいものです。

これまで書いた内容から、本誌名の一部を News→Letter に変えました。

（文責 事務長）